

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.144

2011/11/20

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

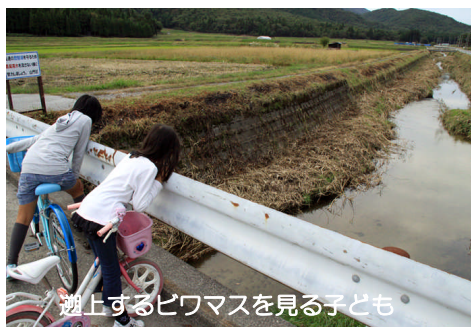
山門集落上流大浦川で産卵するビワマス (11/10/21)

森の生物多様性を保全することが

琵琶湖の多様性保全につながる



婚姻色鮮やかなビワマス



遡上するビワマスを見る子ども



産卵を終えたビワマス

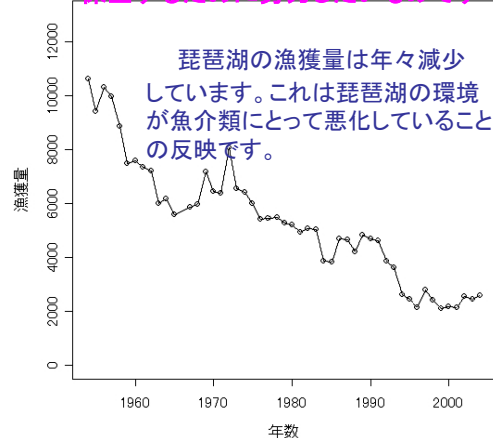
大浦川上流の森

09/11/15

山門水源の森

湖北の河川には毎年秋にビワマスが産卵のため遡上してきます。大浦川もそのうちの1つです。ビワマスは、琵琶湖の固有種ですが、将来共にビワマスが生息するためには、琵琶湖の水質が良い状態で保たれることと同様に、遡上してくる河川的环境も良い状態であればなりません。そのためには上流部(山地)の自然環境が良好に保全される必要があります。

これからもビワマスが遡上できる森を
保全するために努力したいものです



保全作業は多くの方に支えられています

森の環境を保全するために、多種多様な保全作業を行っているが、とても会員の力だけでは手に負えません。今年も多くの団体のみなさんのご協力を得て整備が進んでいます。

ご協力頂いたみなさんありがとうございました。

森の環境を保全するために、多種多様な保全作業を行っているが、とても会員の力だけでは手に負えません。今年も多くの団体のみなさんのご協力を得て整備が進んでいます。



淡海森林クラブのみなさんの除伐作業(11/11/05)



レイカディア大学米原校32期生による食害防止金網撤去作業(11/11/10)



山門老人会のみなさんのコース沿い草刈り(11/11/12)



西浅井中学陸上部員の林床整備(11/11/12)

PHOT:K.FUJIMOTO

地域の小学生(塩津小・永原小)地層学習に

地域には、塩津小学校と永原小学校の2校がある。両校の児童は、卒業までに何回か「山門水源の森」へ学習や自然散策・夏休みの自由研究などにやってくる。今月は、県道沿いにある「地層」の学習に訪れた。全県的にも子どもたちが学習するのに適当な露頭が少ない中、ここには最適な露頭があり、観る・触るの五感を使った学習が出来たものと思っている。何回かの「山門水源の森」での学習が将来自分たちでこの森を守って行ってくれることに繋がるだろう。



塩津小学校の地層学習(11/11/07)



永原小学校の地層学習(11/11/09)



ボーリング調査(11/11/15)

基礎調査研究も

来訪者ガイドなどに忙殺される日々であるが、森の自然環境そのものがどうなっているのかの調査は必須である。今年の後半は、クモの調査(関西クモ研究会・続々と新知見が出始めている)と南部湿原ボーリング(湿原の形成史を明らかにするため)を行っている。これらの調査を通じて森の実態がより詳細に明らかになってくるはずである。



クモ採集中の西川先生(11/10/23)

Phot:H. ITO